



平成27年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成26年9月26日

上場会社名 株式会社ジーンズメイト 上場取引所 東
 コード番号 7448 URL <http://www.jeansmate.co.jp>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 西脇 昌司
 問合せ先責任者（役職名） 専務取締役（氏名） 砂田 真一 (TEL) 03(5738)5555
 四半期報告書提出予定日 平成26年10月3日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第2四半期の業績（平成26年2月21日～平成26年8月20日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第2四半期	4,834	△2.1	△22	—	△5	—	△133	—
26年2月期第2四半期	4,936	△9.8	△248	—	△226	—	△292	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
27年2月期第2四半期	△12.26		—					
26年2月期第2四半期	△26.80		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年2月期第2四半期	6,899	5,205	75.4
26年2月期	7,059	5,341	75.7

(参考) 自己資本 27年2月期第2四半期 5,205百万円 26年2月期 5,341百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年2月期	—	0.00			
27年2月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年2月期の業績予想（平成26年2月21日～平成27年2月20日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,800	△1.3	0	—	25	—	△150	—	△13.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

27年2月期2Q	12,651,466株	26年2月期	12,651,466株
27年2月期2Q	1,724,881株	26年2月期	1,724,589株
27年2月期2Q	10,926,695株	26年2月期2Q	10,927,511株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実行中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(平成26年2月21日から平成26年8月20日まで)におけるわが国経済は、政府の経済政策等により企業収益が徐々に改善され、緩やかな景気回復の流れが続いておりますが、個人消費につきましては、消費税率引き上げや物価上昇等の影響により消費マインドは先行き不透明な状況となりました。

このような経営環境のもと、当社では引き続き業績の回復と安定成長への基盤づくりに向けて取り組んでまいりました。

商品面におきましては、期初の春物商品の立ち上がりで苦戦いたしました。その後、例年よりも早めに投入した夏物商品は順調に立ち上がり、当シーズンの重点販売商品である機能素材(ゼロステイン：汗じみが目立ちにくい素材)を使ったポロシャツや半袖Tシャツをはじめとして、ショートパンツなどが全体を牽引いたしました。その一方で、デニム5ポケット等のボトムス類やアンダーウェア類は前年を下回る水準で推移し苦戦を強いられました。

販売面といたしましては、メール配信や新聞折込広告及び雑誌広告を継続するとともに、重点販売商品の新聞一面広告の掲出やホームページのリニューアル等を実施しながらお客様へのアプローチを充実させてまいりました。

また、プライベートブランド(メンズ「Blue Standard」、レディース「innocent blue」)を軸に生活雑貨等をミックスした新業態店舗「comfort blue(コンフォートブルー)」を4月に立ち上げ、新たなユニセックス業態のチャレンジを開始いたしました。

出退店につきましては、上記の「comfort blue」、「Blue Standard」及び「JEANS MATE」をそれぞれ1店舗(合計3店舗)出店し、「JEANS MATE」の2店舗を退店したことにより当第2四半期会計期間末の総店舗数は99店舗(うち24時間営業店舗は17店舗(すべて「JEANS MATE」))となりました(業態内訳は下表参照)。

以上の結果、売上高48億34百万円(前年同四半期比2.1%減)、営業損失22百万円(前年同四半期は営業損失2億48百万円)、経常損失5百万円(前年同四半期は経常損失2億26百万円)、四半期純損失1億33百万円(前年同四半期は四半期純損失2億92百万円)となりました。

なお、従来より実施していた弊社独自のポイントカード制度は平成26年2月28日をもって終了(ポイントの使用は平成27年2月28日まで可)いたしました。制度が終了したことにより、当第2四半期累計期間の売上総利益率が1.1ポイント改善しております。

業態別店舗数

業態	店舗数	出店地域(都道府県)
JEANS MATE	79店舗	東京 神奈川 千葉 埼玉 静岡 愛知 大阪 兵庫 広島 山口 福岡
ワケあり本舗	12店舗	東京 神奈川 千葉 愛知 三重 大阪 兵庫 福岡
Happy Door	3店舗	神奈川 栃木 広島
Blue Standard	2店舗	大阪 福岡
STREET	2店舗	千葉
comfort blue	1店舗	東京

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ1億59百万円減少し、68億99百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ5億50百万円減少し、39億50百万円となりました。これは主に有価証券が5億29百万円減少、現金及び預金が1億25百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ3億90百万円増加し、29億49百万円となりました。これは主に敷金及び保証金が90百万円減少しましたが、投資有価証券が4億82百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ23百万円減少し、16億94百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ24百万円減少し、8億86百万円となりました。これは主に買掛金が86百万円増加しましたが、ポイント引当金が1億9百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ1百万円増加し、8億7百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ1億36百万円減少し、52億5百万円となりました。これは主に四半期純損失を1億33百万円計上したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、前事業年度末に比べ1億75百万円増加し、14億60百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は、2億30百万円(前年同四半期は3億93百万円の支出)となりました。これは主に税引前四半期純損失が1億12百万円、たな卸資産の増加による支出が79百万円、売上債権の増加による支出が60百万円となったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、4億5百万円(前年同四半期は26百万円の獲得)となりました。これは主に有価証券・投資有価証券の取得及び償還に伴う純収入が3億30百万円、敷金及び保証金の差入及び回収に伴う純収入が1億4百万円となったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、期末配当を行わなかったことにより0百万円(前年同四半期は0百万円の支出)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、平成26年4月4日の当社「平成26年2月期決算短信〔日本基準〕(非連結)」にて公表いたしました業績予想を修正いたしました。当該予想に関する詳細は、平成26年9月22日に公表いたしました「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において営業損失6億82百万円、当期純損失7億56百万円となり、当第2四半期累計期間においても営業損失22百万円、四半期純損失1億33百万円となりました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善すべく、商品力及び販売力の強化を中心に収益力の回復に取り組んでまいります。

① プライベートブランドの拡充

当社の男性向けメインブランドである「Blue Standard」は発売開始以降、着実に拡大させることができておりますが、これまで未着手であった女性向けのブランドにつきましては前事業年度末に「innocent blue」として立ち上げました。今後は両ブランドをメインにその他のプライベートブランドの動向も検証しながら、お客様にご支持いただけるよう努めてまいります。

② 売上総利益の改善

プライベートブランドを拡充していくとともに、在庫効率を高めることで売上総利益の改善を目指してまいります。前事業年度の下半期より不振商品の処分を強化した結果、商品在庫の当期首残高は前期首残高に比べ約20%減少いたしました。今後は在庫量や販売期間等を見極めながら、在庫効率の改善に努めてまいります。

当第2四半期累計期間の月末平均在庫原価は前年同四半期に比べ約15%減少しております。

③ 「伝える売場」の構築

従来の価格訴求中心の売場ではなく、個々の商品情報(デザインや機能等のセールスポイント)をお客様に確実にお伝えできる売場を整備し、お客様に購買意欲を高めていただけるような売場づくりに取り組んでまいります。

④ 新業態店舗の確立

これまでは基幹業態である「JEANS MATE」をはじめとして「ワケあり本舗」、「Happy Door」、「Blue Standard」を運営してまいりました。また、前事業年度には「STREET」を、4月には「comfort blue(コンフォートブルー)」を新たな業態としてオープンいたしました。今後は各業態の動向を検証しながら、収益力の強化に取り組んでまいります。

上記を中心とした施策を講じながら収益力の回復に努めてまいりますとともに、今後の運転資金は十分に確保できていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年2月20日)	当第2四半期会計期間 (平成26年8月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	928,095	802,450
売掛金	110,472	170,635
有価証券	1,954,116	1,424,261
商品	1,357,005	1,436,118
その他	151,015	116,979
流動資産合計	4,500,705	3,950,444
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	644,111	1,126,462
敷金及び保証金	1,910,756	1,820,063
長期未収入金	174,000	173,400
その他	3,528	2,860
貸倒引当金	△174,000	△173,400
投資その他の資産合計	2,558,396	2,949,386
固定資産合計	2,558,396	2,949,386
資産合計	7,059,101	6,899,830
負債の部		
流動負債		
支払信託	149,118	81,252
買掛金	182,447	268,894
賞与引当金	24,633	45,862
ポイント引当金	170,842	61,800
店舗閉鎖損失引当金	—	1,498
資産除去債務	7,864	7,660
その他	376,534	419,810
流動負債合計	911,440	886,779
固定負債		
資産除去債務	457,645	460,442
長期未払金	335,877	335,877
その他	12,214	10,918
固定負債合計	805,736	807,237
負債合計	1,717,176	1,694,017
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,015,812	2,015,812
資本剰余金	2,125,434	2,125,434
利益剰余金	2,458,122	2,324,153
自己株式	△1,259,845	△1,259,908
株主資本合計	5,339,523	5,205,491
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,404	322
繰延ヘッジ損益	△2	—
評価・換算差額等合計	2,401	322
純資産合計	5,341,924	5,205,813
負債純資産合計	7,059,101	6,899,830

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年2月21日 至平成25年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年2月21日 至平成26年8月20日)
売上高	4,936,167	4,834,102
売上原価	2,693,799	2,407,390
売上総利益	2,242,367	2,426,711
販売費及び一般管理費	2,490,583	2,448,870
営業損失(△)	△248,215	△22,158
営業外収益		
有価証券利息	15,606	11,239
受取賃貸料	6,225	10,740
その他	6,326	5,696
営業外収益合計	28,158	27,676
営業外費用		
賃貸費用	5,940	10,740
その他	890	278
営業外費用合計	6,830	11,018
経常損失(△)	△226,888	△5,501
特別損失		
減損損失	44,667	103,438
店舗閉鎖損失	—	2,226
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	1,498
特別損失合計	44,667	107,163
税引前四半期純損失(△)	△271,555	△112,665
住民税	21,323	21,303
四半期純損失(△)	△292,878	△133,969

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自 平成25年2月21日 至 平成25年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年2月21日 至 平成26年8月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△271,555	△112,665
減価償却費	4,095	6,003
減損損失	44,667	103,438
賞与引当金の増減額(△は減少)	21,520	21,229
ポイント引当金の増減額(△は減少)	2,505	△109,042
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△7,664	1,498
受取利息及び受取配当金	△15,606	△11,337
売上債権の増減額(△は増加)	△35,172	△60,162
たな卸資産の増減額(△は増加)	64,748	△79,113
仕入債務の増減額(△は減少)	△105,478	18,581
その他	△62,569	19,163
小計	△360,508	△202,406
利息及び配当金の受取額	16,243	11,759
法人税等の支払額	△48,862	△39,416
営業活動によるキャッシュ・フロー	△393,128	△230,063
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△1,092,975	△569,189
有価証券の償還による収入	1,155,108	599,099
有形固定資産の取得による支出	△15,645	△43,525
無形固定資産の取得による支出	△14,400	—
投資有価証券の取得による支出	△55,000	△699,260
投資有価証券の償還による収入	25,000	1,000,000
敷金及び保証金の差入による支出	△15	△22,133
敷金及び保証金の回収による収入	38,872	126,713
その他	△14,085	13,714
投資活動によるキャッシュ・フロー	26,858	405,418
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△132	△62
配当金の支払額	△113	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△246	△62
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,962	166
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△364,554	175,459
現金及び現金同等物の期首残高	1,214,099	1,285,148
現金及び現金同等物の四半期末残高	849,545	1,460,607

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。